

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館研究報告 vol.12-1; 表紙,目次ほか

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立民族学博物館, National Museum of Ethnology 公開日: 2010-02-16 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009221

1987—12_卷1_号

国立民族学博物館 研究報告

●
The Ecological Basis for Fish Fermentation in Freshwater
Environments of Continental Southeast Asia:
with Special Reference to Burma and Kampuchea——RUDDLE, Kenneth

中央アンデスの定期市
——ポリビア領ラパス県高地部の事例——藤井龍彦

メキシコの仮面
——芸能による分類の試み——黒田悦子

専門図書館における非図書資料の位置づけ
——服装情報サービスの基本技術——大丸 弘, 高橋晴子

Ritual Application of Mensuration Rules in India:
An Edition of Ganeśa's *Kundasiddhyudāhṛti* with
Mathematical Commentary——HAYASHI, Takao



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

12 卷 1 号

1987 年

目 次

The Ecological Basis for Fish Fermentation in Freshwater Environments of Continental Southeast Asia: with Special Reference to Burma and Kampuchea	RUDDLE, Kenneth..... 1
中央アンデスの定期市 —ボリビア領ラパス県高地部の事例—	藤井龍彦..... 49
メキシコの仮面 —芸能による分類の試み—	黒田悦子.....129
専門図書館における非図書資料の位置づけ —服装情報サービスの基本技術—	大丸 弘.....175 高橋晴子
Ritual Application of Mensuration Rules in India: An Edition of Gaṇeśa's <i>Kuṇḍasiddhyudāhṛti</i> with Mathematical Commentary	HAYASHI, Takao.....199
彙 報	225
国立民族学博物館研究報告寄稿要項	231
国立民族学博物館研究報告執筆要領	232

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 12 No. 1

1987

RUDDLE, Kenneth	The Ecological Basis for Fish Fermentation in Freshwater Environments of Continental Southeast Asia: with Special Reference to Burma and Kampuchea.....	1
FUJII, Tatsuhiko	Periodical Markets in the Highland of the Department of La Paz, Bolivia.....	49
KURODA, Etsuko	Mexican Masks at the National Museum of Ethnology, Japan.....	129
DAIMARU, Hiroshi TAKAHASHI, Haruko	Non-Book Materials in the Special Library.....	175
HAYASHI, Takao	Ritual Application of Mensuration Rules in India: An Edition of Gaṇeśa's <i>Kuṇḍasiddhy- udāhṛti</i> with Mathematical Commentary	199

彙 報 (昭和62年1月～
昭和62年3月)

シンポジウム

◎日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅦ

『日本語の形成』

日時 昭和62年1月20日(火)～1月23日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 この特別研究は、日本民族文化の形成・発展の道筋を考える上で提起される様々の問題を、周辺民族との比較を通じて、遠心的・求心的に研究しようとする10年計画のプロジェクトである。本年度は、日本語の形成をテーマとして、日本民族文化の流れを考察する立場から日本語の歴史を主たるトピックスとし、それをせまい意味での「系統論」からではなく、「成立論」という角度から討論するのが目的である。

シンポジウム実行委員会

崎山 理 国立民族学博物館第五研究
(委員長) 部助教授
長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究
(副委員長) 部助教授
庄司 博史 国立民族学博物館第三研究
部助手
永ノ尾信悟 国立民族学博物館第二研究
部助手
佐々木史郎 国立民族学博物館第一研究
部助手
須藤 健一 国立民族学博物館第一研究
部助教授
瀬川 昌久 国立民族学博物館第一研究
部助手
田中 雅一 国立民族学博物館第二研究
部助手
木田 良次 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長
岡本 薫 「源流」事務局

参加者

報告者

R. アウステリッツ
コロンビア大学言語学科

江上 波夫 古代オリエント博物館
大林 太良 東京大学教養学部
川本 崇雄 上越教育大学学校教育学部
阪倉 篤義 甲南女子大学文学部
崎山 理 国立民族学博物館
成 百仁 ソウル大学言語学科
田村すず子 早稲田大学語学教育研究所
土田 滋 東京大学文学部
徳川 宗賢 大阪大学文学部
J. A. マティソフ カリフォルニア大学
言語学科
R. ラムゼイ メリーランド大学ヘブラ
イ語・東アジア語学科

討論者

石毛 直道 国立民族学博物館
梅棹 忠夫 国立民族学博物館
菅野 裕臣 東京外国語大学外国語学部
小泉 保 大阪外国語大学外国語学部
佐々木高明 国立民族学博物館
庄司 博史 国立民族学博物館
長野 泰彦 国立民族学博物館
松原 正毅 国立民族学博物館
吉田 集而 国立民族学博物館
福井 勝義 国立民族学博物館
松澤 員子 国立民族学博物館
村崎 恭子 北海道大学言語文化部
和田 祐一 国立民族学博物館

日 程

1月20日(火)

13:30 (座長 杉本 尚次)
運営委員長挨拶 佐々木高明
問題提起 崎山 理
15:00 (座長 石毛 直道)
民族学からの問題提起
大林 太良
江上 波夫

1月21日(水)

10:00 (座長 長野 泰彦)
チベット・ビルマ諸語との関連
J. A. マティソフ
13:00 (座長 庄司 博史)
北方諸語との関連
R. アウステリッツ
15:00 (座長 菅野 裕臣)

朝鮮語およびアルタイ諸語との関連

R. ラムゼイ
成 百仁

1月22日(木)

10:00 (座長 長野 泰彦)
アイヌ語との関連

田村すず子

13:00 (座長 崎山 理)
言語の系統関係とは何か?
—オーストロネシア語族の場合—
土田 滋

15:00 (座長 和田 祐一)
ビジン・クレオール化と日本語の形成
川本 崇雄

1月23日(金)

10:00 (座長 R. ラムゼイ)
日本の方言—日本語の形成とのか
かわり— 徳川 宗賢

13:00 (座長 J. A. マティソフ)
日本語の語構成論から—接頭辞を
めぐって— 阪倉 篤義

15:00 (座長 崎山 理)
総括討論

シンポジウム

◎「現代日本文化における伝統と変容」シン
ポジウムⅤ 現代日本の“神話”

日時 昭和62年2月18日(水)～20日(金)

場所 国立民族学博物館

摘要 本館では「現代日本文化における伝統
と変容」をテーマに特別研究を行って
きたが、今年度(第5回)のシンポジ
ウムにおいては、『現代日本の“神話”』
をテーマとしてとりあげる。現代日本
を支える規範や原理にかかわる信念体
系をとりあげ、具体的な行動や歴史の
事実をふまえながら、「神話と儀礼」
「神話と事実」というような脈絡で討
論できるような事象を実証的に検討す
ることを目的としている。

シンポジウム委員会

中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究
(委員 長) 部助教授

松山 利夫 国立民族学博物館第一研究
部助教授

吉本 忍 国立民族学博物館第二研究
部助手

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部助手

木田 良次 国立民族学博物館管理部庶
務課共同利用係長

寺島 緑 「伝統と変容」事務局

参加者

報告者

上野千鶴子 平安女学院短期大学

江淵 一公 福岡教育大学・広島大学

久保 正敏 国立民族学博物館

高田 公理 愛知学泉女子短期大学

中牧 弘允 国立民族学博物館

長島 信弘 一橋大学(民博客員教官)

西山 茂 東洋大学

端 信行 国立民族学博物館

吉田 集而 国立民族学博物館

討論者

石毛 直道 国立民族学博物館

石森 秀三 国立民族学博物館

井上 忠司 甲南大学(民博客員教官)

梅棹 忠夫 国立民族学博物館

栗田 靖之 国立民族学博物館

小山 修三 国立民族学博物館

杉田 繁治 国立民族学博物館

祖父江孝男 放送大学

大丸 弘 国立民族学博物館

竹村 卓二 国立民族学博物館

波平恵美子 九州芸術工科大学

藤井 知昭 国立民族学博物館

森田 恒之 国立民族学博物館

守屋 毅 国立民族学博物館

米山 俊直 京都大学

日程

2月18日(水)

13:30 (司会 竹村 卓二)

挨拶 梅棹 忠夫
問題提起: 現代日本の“神話”
中牧 弘允

14:45 (司会 栗田 靖之)

「家父長制」神話の軌跡
高田 公理

16:15 (司会 杉田 繁治)

「大衆社会」の神話と現実
上野千鶴子

彙 報

2月19日(木)

- 10:30 (司会 石森 秀三)
経済“神話”の論理 端 信行
- 13:15 (司会 小山 修三)
国家と教団—国家観と国際化をめ
ぐって— 中牧 弘允
- 14:45 (司会 石毛 直道)
日本人の「学校信仰」—現代の学
校繁栄を支える神話—
江淵 一公
- 16:15 (司会 藤井 知昭)
「からだにいいこと、何かしてい
ますか」—健康神話をめぐって—
吉田 集而

2月20日(金)

- 10:30 (司会 守屋 毅)
宗教運動におけるユートピアとエ
クスタシーの相関—仏立講・国柱
会・創価学会の事例比較—
西山 茂
- 13:15 (司会 森田 恒之)
科学と神話—情報化社会をめぐ
って— 久保 正敏
- 14:45 (司会 井上 忠司)
日本人論・日本文化論の神話—西
欧日本研究の一側面—
長島 信弘
- 16:15 (司会 中牧 弘允)
総括討論 祖父江孝男
米山 俊直

シンポジウム

◎「近代世界における日本文明」

—知と教養の比較文明学—

日時 昭和62年3月30日(月)～4月6日(月)

場所 国立民族学博物館

概要 谷口国際シンポジウム文明学部門は、
「近代世界における日本文明」という
大きなテーマのもとで、文明学という
新しい研究領域の開拓に着手してきた。
今回のテーマは、「知と教養の比較文明
学」とする。知と教養は文明というも
のをかんがえるうえで、つねに文武の
対立概念のなかで重要な意味をもつも
のである。この「文」のもつ本質を文
明学的にとらえてみようというのが今

回テーマの目的である。

組織委員会

- 梅棹 忠夫 国立民族学博物館長
(委員長)
- 竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究
部長
- 佐々木高明 国立民族学博物館第二研究
部長
- 伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究
部長
- 藤井 知昭 国立民族学博物館第四研究
部長
- 杉本 尚次 国立民族学博物館第五研究
部長
- 秦 明夫 国立民族学博物館管理部長
ヨーゼフ・クライナー
(専門委員) ボン大学日本文化研究所長
ハルミ・ベフ スタンフォード大学教授
(専門委員)

実行委員会

- 栗田 靖之 国立民族学博物館第二研究
(委員長) 部助教授
- 中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究
部助教授
- 端 信行 国立民族学博物館第三研究
部助教授
- 小山 修三 国立民族学博物館第四研究
部助教授
- 杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部助教授
- 山本 泰則 国立民族学博物館第五研究
部助手
- 糸金則由紀 国立民族学博物館庶務課長
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務
理事
- 宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事
業部長

参加者

- ハルミ・ベフ スタンフォード大学
ヴィクター・ノブオ・コバヤシ
ハワイ大学
ヨーゼフ・クライナー ボン大学
キャサリン・キャロル・ルイス
カリフォルニア大学
レギネ・マティアス ボン大学
ミコワイ・メラノーヴィチ
ワルシャワ大学

梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 大塚 和夫 国立民族学博物館
 樺山 紘一 東京大学
 栗田 靖之 国立民族学博物館
 吉田 純 東京大学東洋文化研究所
 渡辺 浩 東京大学

日 程

3月30日(月) (千里阪急ホテル)
 17:00 登録
 3月31日(火) (国立民族学博物館)
 10:00 開会式(司会 栗田 靖之)
 10:05 基調講演:梅棹 忠夫
 (代読 中牧 弘允)
 11:05 自己紹介(司会 栗田 靖之)
 14:00 展示場見学
 セッション1(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 15:30 渡辺 浩 「儒者・読書人・両班
 ——『教養人』の存在形態」
 16:30 討論
 4月1日(水) (国立民族学博物館)
 セッション2(座長 大塚 和夫)
 10:00 ミコワイ・メラノーヴィチ「谷崎
 潤一郎と ヘンリック・シェンキエ
 ーヴィチの小説におけるエトス」
 11:00 討論
 セッション3(座長 ハルミ・ベフ)
 13:00 吉田 純 「清代中国の言葉の問題
 をめぐって ——国語問題および
 考証学について」
 14:00 討論
 セッション4(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 15:30 大塚 和夫 「近・現代エジプトに
 おけるイスラーム的知識の獲得
 ——ウラマー, スーフィー,
 原理主義者そして民衆」
 16:30 討論

4月2日(木) (国立民族学博物館)
 セッション5(座長 吉田 純)
 10:00 ヴィクター・ノブオ・コバヤシ
 「Ecological Perspectives on Kyoyo
 and Aesthetic Quality: Japan and
 America」
 11:00 討論
 セッション6(座長 樺山 紘一)
 13:00 キャサリン・キャロル・ルイス
 「The Link between Culture and
 Education: A View from the
 Nursery School」
 14:00 討論
 4月3日(金) (彦根城博物館見学)
 4月4日(土) (国立民族学博物館)
 セッション7(座長 ハルミ・ベフ)
 10:00 樺山 紘一 「ヨーロッパ教養体系
 の変容 ——17世紀フランスを素材
 に」
 11:00 討論
 セッション8(座長 渡辺 浩)
 14:00 レギネ・マティアス 「大量生産品
 となった文学的教養——レクラム
 文庫と岩波文庫を中心として」
 15:00 討論
 4月5日(日) (国立民族学博物館)
 セッション9(座長 ヨーゼフ・クライナー)
 10:00 栗田 靖之 「会議の文化—寄り合
 の伝統をめぐって」
 11:00 討論
 セッション10(座長 栗田 靖之)
 14:00 総合討論
 16:00 閉会式
 4月6日(月) (千里阪急ホテル)
 午前中 ワークショップ
 解散

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
中山 和芳	助手(第四研究部)	62. 1. 14	62. 2. 10	アメリカ合衆国
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	62. 1. 21	62. 1. 30	タイ
野村 雅一	助教授(第五研究部)	62. 1. 23	62. 2. 14	ポーランド
佐々木高明	教授(第二研究部)	62. 1. 25	62. 1. 29	タイ
藤井 知昭	教授(第四研究部)	62. 1. 26	62. 2. 5	スリランカ, タイ, インドネシア

彙 報

松原 正毅 助教授(第二研究部) 62. 2. 14 62. 12. 13 連合王国
 藤井 知昭 教授(第四研究部) 62. 3. 15 62. 3. 20 ネパール

来館者抄

1月19日	村瀬 秀樹(オランダ村博物館学芸員) R. アウステリッツ(アメリカ合衆国, コロンビア大学)		竹内 一正(国立歴史民俗博物館管理部会計課) 織田 雄一(国立歴史民俗博物館資料課) 近江 昌司(天理大学附属参考館)
1月20日	Sari Jamil NASIR(ヨルダン, ヨルダン大学社会科学科長)	2月17日	Peter FETEHO(U.S.A., Director, Peabody Museum of Salam), John THAYER(U.S.A., Curator, Peabody Museum of Salam) Bisiliat MAUREEN(ブラジル, 写真家)
1月22日	中国, 上海市人民代表大会常務委員会友好代表団一行 団長 王 鑒(上海市人民代表大会常務委員会副主任) 団員 呉 増 亮(上海市人民政府建設委員会副主任) 楼 岱(上海市人民代表大会大会人事工作委員会委員) 陳 徳 明(上海市人民代表大会財経委員会委員) 朱 鴻 興(上海市人民代表大会常務委員会副秘書長) 通訳 顧 克 順(上海市人民代表大会) 田中 俊昭(オランダ村博物館業務係長)	2月19日	宮原 正信(高エネルギー物理学研究所施設部工営第3係長) 松山 篤(高エネルギー物理学研究所施設部企画係)
		2月20日	関 四郎(東京学芸大学長) 上野 保之(東京学芸大学事務局長) 中村 俊彦, 長谷川雅美(千葉県教育庁文化課博物館準備室文化財主事) 根岸 博美, 松本麻弥子(国際協力事業団図書資料室)
1月28日	大塩洋一郎(国際花と緑の博覧会協会事務総長)	2月26日	大韓民国, 文教部幹部職員一行 LEE Chun-Soo(文教部監査官) CHOI Ee-Shick(文教部企画管理室予算担当官) CHUNG Han-Ro(文教部在外国民課長) LEE Bun-Suk(文教部教育研究官) YOU Sun-Giu(文教部総務課事務官) JOEN Chan-Goo(文教部教育協力課主事)
1月29日	樋口 雅晴, 中村 恵(東京国立博物館総務部会計課) 遠藤 更正(東京大学施設部企画課経理掛長)		随行 鳥飼 繁(文部省学術国際局国際企画課長補佐)
1月30日	中国, 日本語学習グループ一行 団長 劉 玉 珠(国際旅行社総社) 他9名 Ken Vos(Netherlands, Curator, Leiden National Museum of Ethnology)	2月27日	廣松 涉(東京大学教授) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団一行 黒沢 重樹(主任)
2月2日	権 夔 耕(大韓民国, 教員大学総長)		
2月4日	大久保八八(統計数理研究所庶務課長補佐)		
2月13日	田中 稔(国立歴史民俗博物館管理部庶務課共同利用係長)		

- 依田 治雄(専門員)
 小林 敏夫(専門員)
 石守 晃(調査研究員)
 岩崎 泰一(調査研究員)
 3月2日 Lahoucine FAOUZI (モロッコ王国, MAP通信記者)
 El-Kacimi Alaoui Moulay
 LHASSAN (モロッコ王国, マロック・ソワール紙特命記者)
 3月5日 東京大学施設部建築課一行
 島田 端信(課長補佐)他4名
 中国, 日本語講師短期研修会参加者一行
 曹 小 先(北京外国語学院院務委員会副主任)他33名
 3月9日 宇宙科学研究所一行 桜井 直人(契約課契約第四係長)他2名
 3月11日 フランシス・S. M. ホドゥソル(アメリカ合衆国, アメリカ芸術基金理事長)
 ゲーリー・スミス(アメリカンセンター館長)
 ジョン・マロット(アメリカ総領事館総領事)
 西堀榮三郎(元原子力船開発事業団理事)
 3月12日 塩田 俊仁(国立教育研究所会計主任)
 山崎 茂男(国立教育研究所庶務係)
 3月13日 前畑 宏宏(文化庁文化部長)
 上山 政美(国立歴史民俗博物館管理部施設課長)
 中台 弘(国立歴史民俗博物館工営係長)
 3月16日 張 庚夫妻(中国, 芸術研究員副院長)
 岩上 功(東京大学東京天文台業務主任)
 3月17日 Anije Trientje CLASON (オランダ, グロニンゲン大学生物学考古学研究所動物考古学主任)
 3月19日 宮本 明雄(東京大学附属図書館総務課システム管理掛長)
 田村 潤二(東京大学附属図書館整理課雑誌閲覧掛長)
 大西 直樹(東京大学附属図書館整理課受入掛員)
 3月20日 和田 満(筑波大学施設部企画課長)
 3月23日 M.D. McLEOD (連合王国, 大英博物館附属人間博物館長)
 J.J. McGOVERN (The British Council)
 3月24日 小畑 次男(東北大学施設部企画課長補佐)
 佐々木紀安(東北大学施設部企画課企画掛長)
 3月25日 金山 聖子(北海道立図書館業務部館外奉仕課司書)
 3月26日 村上 安(東京大学資料編纂所事務長補佐)
 武藤 雄二(東京大学資料編纂所庶務掛員)
 関 祐子(東京大学資料編纂所庶務掛員)
 平塚 和雄(三重大学施設部長)
 太田 隆雄(三重大学施設部企画課長)
 中村 昌彦(三重大学施設部設備課長補佐)
 3月27日 Klaas Axel Anton Wessel
 WOORTMANN (ブラジル連邦共和国, ブラジリア大学大学院文化人類学主任教授)
 3月28日 名古屋大学農学部一行
 榊原 清(文部技官)他5名
 3月30日 中川 陽子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所図書係員)
 須郷 知子(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所図書係員)
 岡田ほなみ(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研修情報処理係員)
 3月31日 于 季 卿(中国, 社会科学院文献情報センター図書館副研究館員)
 南 浩 太(中国, 吉林粮油食品专科学校食品科学系副主任講師)
 Mohammed Hassan Jabir AL-ANSARI (バハレーン, アラビアン・ガルフ大学教授, 文化顧問)
 パイシット博士夫妻(タイ国)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のすみ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 12卷1号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

竹 村 卓 二

〔編集委員〕

君 島 久 子

ケネス・ラドル

崎 山 理

須 藤 健 一

田 邊 繁 治

垂 水 稔

中 山 和 芳

長 野 泰 彦

福 井 勝 義

宮 本 勝 勝

八 杉 佳 穂

和 田 正 平

昭和62年9月5日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 12卷1号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.12 no.1
1987

RUDDLE, Kenneth

The Ecological Basis for Fish Fermentation in
Freshwater Environments of Continental
Southeast Asia: with Special Reference to
Burma and Kampuchea

FUJII, Tatsuhiko

Periodical Markets in the Highland of the
Department of La Paz, Bolivia

KURODA, Etsuko

Mexican Masks at the National Museum of
Ethnology, Japan

DAIMARU, Hiroshi
TAKAHASHI, Haruko

Non-Book Materials in the Special Library

HAYASHI, Takao

Ritual Application of Mensuration Rules in
India: An Edition of Gaṇeśa's *Kuṇḍasiddhyudāhṛti*
with Mathematical Commentary



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X